

事実を捻じ曲げて心が痛みませんか？

1月27日に発生した「運転科長用件を使った組合への支配介入事件(※)」について幹鉄事の窓口から回答があった。その内容は事実から背を向け、何も問題はないと開き直りといえる内容であった。分会は運転科長の言動を断じて許すことはできない。よってあらゆる手段を持って闘うことを明らかにする。

まずは組合からの申し入れ内容とその窓口の回答を公表する。(要旨)

組合：運転科長が所員を「科長用件」で呼び出した経過と目的を明らかにすること

会社：コミュニケーションを図る一環である。話の内容は出勤遅延防止についてであると聞いている。

冒頭からあきれてしまう。これまで「かべ新聞」で明らかにしてきたが、運転科長の発言がコミュニケーションを図ることと言えますか？何度でも言いますよ～

「よく書いてくれましたねえ～いいんですか？出勤遅延防止のビデオ流して～え～っ！」**「出勤遅延防止ビデオ流して、要求実現ってまた騒ぐ気？」**

この言動で**「出勤遅延防止について話をしてコミュニケーションを図った」**と思える？
どう解釈したらこうなる訳？なおこの言動は多くの所員の前で言った暴言だよ！事実とまったく違う事を平然と言うことに心が痛みませんか？

※事件のあらまし ある所員が科長用件で運転科長に呼ばれた。運転科長は組合掲示の内容について話しをして所員を威圧した。所員と所属する分会は組合活動への支配介入であるとして「苦情申告」と「申 16 号」を幹鉄事に申入れるが、幹鉄事は「支配した認識はない」として苦情申告と申し入れを拒否した。